

< 学会レポート >

第 11 回医療の質・安全学会学術集会

2016 年 11 月 19 日・20 日 於幕張メッセ国際会議場

旗手 俊彦
(札幌医科大学医療人育成センター)

医療の質・安全学会学術集会は、今年度も 2,700 人以上が参加し、極めて盛況のうちに無事終了した。学会トップの一人の発言にあったとおり、現在の日本において、この学会が「医療の質と安全に関するプラットフォーム」としての役割を果たしていることが益々明らかになる学術集会であった。

今年度第 11 回学術集会のテーマは、「医療の質と安全のあいだ」であった。これに関して、大会長の伊部俊子氏による大会長講演で「現在の日本の医療では、医療安全が医療の質を凌駕している」との発言があったとおり、医療事故に関する報道と社会的関心が高まっている今日、学会プログラムも医療安全に関するセッションが多く設けられた。しかし、昨年度までとの違いは、医療事故の教訓化に着手したことである。2015 年度の大きなテーマは、2016 年 10 月より施行された改正医療法に基づく院内医療事故調査制度の進め方の標準化等を中心に置かれていた。これに対して今年度は、全国の医療施設にとって教訓となる医療事故あるいはその調査結果について、医療の質・安全学会の教訓化委員会が中心となり、何らかの方法で会員あるいは全国の医療施設に公表し、学会あるいは全国レベルで再発防止に取り組む方向が確認されたことは特筆に値する。

他方、医療の質に関しては特筆すべきは、Choosing Wisely Campaign に同学会が本格的に着手したことである。Choosing Wisely に関しては、第 11 回学術集会でもパネルディスカッションが設けられたほか、学術集会に先立つ 2016 年 10 月 15 日に、Choosing Wisely Japan キックオフミーティングが開催され、過剰医療・防衛医療に陥ることなく、患者にとって最適な医療をいかに患者と医療者が選択するかの基本的な考え方や方法論について議論がなされた。Choosing Wisely Japan に関しては、その HP URL: <http://choosingsesely.jp/> を参照されたい。

この他、英国オックスフォード大学教授の Charles Vincent 氏による「患者安全：過去、現在そして未来」とのタイトルの特別講演がなされたほか、昨年度学術集会に引き続き、WHO 患者安全カリキュラムガイドに関する教育セミナーも設けられた。このように世界的レベルに十分にキャッチアップした学術集会は、内容面においても、まさに日本の医療の質・安全に関する「プラットフォーム」と表現するにふさわしいといえよう。

次回学術集会は、2017 年 11 月 25 日（土）～ 26 日（日）に幕張メッセ国際会議場で開催されることが決定したが、医療の質・安全学会は、医療安全管理者向けのセミナー等、年次学術集会とは別に年間数回のセミナーや学術集会を開催している。今後も同学会の取組には目が離せないと同時に、医療の質・安全に関心を有する方々には積極的な参加を呼び掛けたい。